

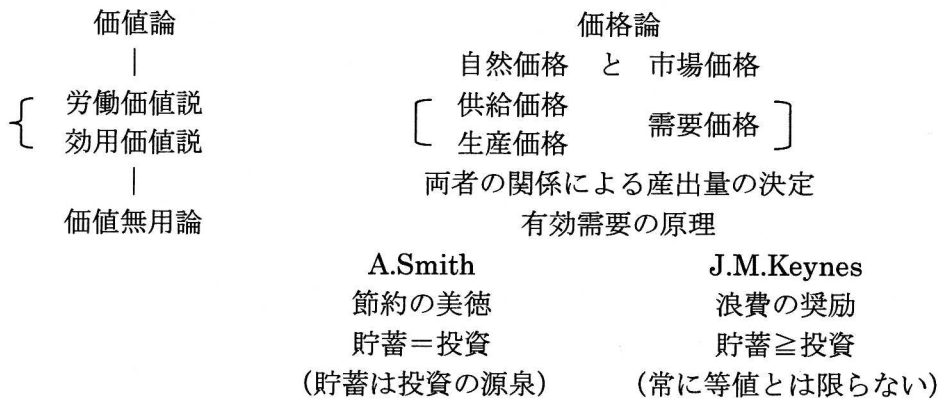
経済学方法論上の諸問題

富田 重夫

◎ 客観的認識としての経済学

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1. 実証主義 (Positivism)
J.S.Mill, J.N.Keynes,
M.Blaug など
経験的検証
(経験論・唯物論)</p> | と | <p>先天主義 (A Priorism)
C.Menger, M.Weber,
L.Robbins など
論理的整合性と現実適用性
先験論・観念論</p> |
| <p>2. 個人主義 (原子論)
Individualism (Atomism)
C.Menger, W.S.Jevons
L.Walras
(個と全体の関係の問題)</p> | と | <p>総体主義 (有機体論)
Holism (Organicism)
歴史学派、
A.Marshall, J.M.Keynes など</p> |
| <p>3. 生産・分配の学
(Materialist Definition)
A.Smith, D.Ricardo,
A.Marshall, J.M.Keynes
Post-Keynesian
(研究の焦点と視角の問題)</p> | と | <p>稀少資源配分の学
(Scarcity Definition)
C.Menger, L.Walras
現代一般均衡論者</p> |

◎ 価値・価格の理論としての経済学



○ケインズ以後の現代的課題 (環境破壊)

如何に消費し生産すべきか

再生産可能な循環的経済の構築

○ワラルスの市場価格論

稀少資源の配分の理論

最大化・最小化問題

有効な配分システムとしての競争市場の優位性

市場の失敗—公的政策・規制

◎ 社会批判 (Social Critic) の学としての経済学

実証主義・先天主義を超えた歴史的評価